



子ども屋形太鼓を担いで練り歩く男山中学校の生徒たち



手づくりの屋形太鼓を担いで練り歩くみその保育園の園児たち

勇壮 太鼓まつり

園児の手づくり屋形太鼓も

八幡に夏の訪れを告げる「太鼓まつり」が7月14、15日に行われ、一区、二区、三区、六区の屋形太鼓の担ぎ手たちが町内を練り歩きました。

まつりは、石清水八幡宮の摂社・高良神社の例祭の宵祭として天明3年(1783年)ごろに始まり、文政年間(1818~30年)に入り、町ごとに大きな屋形太鼓がつくられ、太鼓を打ち鳴らしながら練り歩く姿に発展しました。

まつりに向けて、保育園では園児たちが手づくりの屋形太鼓を、男山中学校では生徒らが子ども屋形太鼓を担ぎ、町内や校内グラウンドを練り歩くなど、地域一体が太鼓まつりムードに包まれました。

15日には、まつり最大の見どころ「宮入」が行われ、同神社に各区の屋形太鼓4基と子ども屋形太鼓3基が集結。

「宮入」が始まると、太鼓の音が鳴り響く中、各区の担ぎ手たちが順に参道を往復。「ヨッサー、ヨッサー」と威勢の良い掛け声を上げながら勇壮に練り歩く担ぎ手たちの姿に、参道脇に詰めかけた見物客たちからは大きな拍手が沸き起こっていました。

お抹茶のおもてなしを受ける児童たち



お茶会で「東山文化」体験

くすのき小6年81人

7月13日、茶道教室がくすのき小学校で行われ、6年生81人がお茶会を体験しました。

この教室は、お茶会を通して、児童たちに授業で学んでいる室町時代中期の文化である「東山文化」を体験してもらおうと、男山第二中学校校区学校支援地域本部の協力を得て実施されました。

児童たちは、同本部員から指導を受けながら、茶室の入り方や歩き方、礼の仕方などを実践。

その後、アサガオを模したお茶菓子と八幡市産抹茶「浜乃風」でもてなされ、児童たちはお点前をいただく前に「茶碗を時計回りに2度回す」などの作法を守りながら、美味しそうにお抹茶やお茶菓子を味わっていました。

真藤健翔君(11)は「初めてお茶会を体験しましたが、楽しかったです。抹茶は苦みもあったけど、美味しかったです」と話していました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

オリンピック・パラリンピック

東京2020フラッグツアー八幡に

オリンピック・パラリンピックのフラッグが全国を巡る「東京2020オリンピックフラッグツアー」が7月19日、市役所を訪れ、フラッグが市民らに一日披露されました。

同ツアーは、オリンピック・パラリンピックの象徴であるフラッグが全国を巡ること

で、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックへの一体感を創出しようと、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会な

どが主催。一昨年10月に東京都小笠原村からスタートし、全国を巡っています。

フラッグは市役所1階エレベーター前に展示され、来庁した市民らにお披露目。市民らは間近で見入ったり、カメラで撮影したりしながら、フラッグの観賞を楽しんでいました。

お子さんと訪れた塘就介さん(38)は「子どもと一緒に東京オリンピック・パラリンピックを観戦したいですね」と話していました。



フラッグに見入る親子連れ

大震災の教訓生かし

八幡市自主防災推進協議会20周年

7月1日、八幡市自主防災推進協議会20周年記念式典が文化センター小ホールで開催され、会員ら約200人の出席者が同会の結成20周年を祝いました。

同会は、平成7年に発生した阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、市内で組織された自主防災組織の強化を図るため、平成10年に結成。市民防災訓練や火災予防運動などの防災活動に取り組んでいます。



記念講演の様子

災害に強い地域づくり

式典では講演も行われ、兵庫県立大学減災復興政策研究科准教授の阪本真由美さんが、『過去の災害から学ぶ災害に強い地域のつくり方』をテーマに講演しました。

阪本さんは、6月18日に発生した大阪府北部地震に触れながら、災害に関する過去の事例などを紹介。また、災害に強い地域づくりのポイントに、「災害時の地域の役割を見直すこと」などを挙げ、出席者たちは今後の活動に生かそうと熱心に講演に聴き入っていました。